第4回企画展図録

器は語る
須恵器の美と技と

1994

熊本県立装飾古墳館

■表紙の写真　塚原古墳群「丸山３号墳」出土：壺付器台（８～９ページ参照）

ごあいさつ

熊本県立装飾古墳館は、平成４年４月15日に開館し、平成５年12月末までに約12万５千人と、大勢の皆様に御来館いただきました。皆様の深い御理解と、御支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

当館では、地域性を活かした「装飾古墳」の実物大のレプリカと、菊池川流域から出土した遺物等を中心に展示を行っています。

また、種々の体験学習会や、企画展も開催してまいりました。今回は、第４回企画展「器（うつわ）は語る・須恵器の美と技（わざ）と」を開催し、５世紀に朝鮮半島から伝えられた陶質土器とその影響のもとに発生した須恵器にスポットを当て、日頃目に触れることの少ない物まで一堂に集め、比較検討していただくため県内および、福岡県出土の陶質土器や須恵器の展示をおこないました。

外来の技術により、窖窯（あなぐま）（登り窯）で焼成された「須恵器」には、時として自然釉の付着した、目を見張るような作品が残されています。ロクロを使った波状文や、叩きの技法等が織りなす各種の文様、器形の豊かさと面白さも見ていただき、製作の技法や「ヘラ記号」、遺物の出土状況等についても考えて見たいとおもいます。

この展覧会を通じて、古代文化への理解を深めていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、貴重な資料等を快く御出品いただきました所蔵者・機関の方々に深く感謝申し上げますとともに、御指導・御協力を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成６年２月１日

熊本県立装飾古墳館館長　原口長之

目　　次

館長あいさつ
須恵器とは何か …… 1
陶質土器と初期須恵器 …… 2
新・旧の対比 …… 3
須恵器の器種と用途 …… 4
様々な遺跡と須恵器など …… 6
須恵器を模倣した土師器 …… 19
須恵器の窯跡と技法 …… 20
へら記号のある須恵器 …… 23
文字と硯 …… 24
参考文献 …… 27
展示資料一覧 …… 28
企画展協力者・協力機関 …… 30

凡　　例

1．この図録は、平成６年２月１日から３月13日まで開催する企画展「器は語る・須恵器の美と技と」の展示図録として作成しました。
2．図録に掲載した資料の一部を展示替えすることがあります。
3．図録に掲載した写真は、当館の撮影によるもののほか、巻末にご芳名を記載しました。
4．ご提供いただいた資料の一部が、図録に掲載できなかったことをお詫びいたします。
5．今回の企画展開催にあたり、ご協力いただいた諸氏、関係機関にたいして巻末にご芳名を記すとともに深謝の意を表します。
6．図録の執筆、編集は学芸課の前田軍治が行いました。

須恵器とは何か

須恵器とは、古墳時代に朝鮮半島から伝えられた新しい製陶の技法により作られた陶質の焼き物（土器）で、日本列島に以前からあった縄文土器・弥生土器・土師器などが、露天の焚き火状の火で酸化焔焼成（600～800度）されたのに対して、「須恵器」は窖窯（登り窯）で還元焔焼成（1000度以上の高温）されているため、硬質に焼き上がり灰色を呈するものが多く、叩けば金属音に近い音がします。

須恵器は、それまで日本で作られていた土器に比べ、ロクロを使用する等高度な技術により作られ、「日本書紀」によると、雄略天皇の７年（463年）の条に「新漢陶部高貴という工人が、錦織部・鞍作部などの工人と共に百済から来朝して大和に住んだ」との記載からもわかるように、渡来人によって須恵器の生産が行われたことを物語っています。

最古期の須恵器生産遺跡として、大阪府の阪南丘陵（堺市とその周辺）の大庭寺・陶邑古窯址群等が知られていますが、ほぼ時を同じくして北部九州にも窯が築かれました。

福岡県朝倉地方の小隈・山隈窯跡群等（朝倉窯跡群）がそれで、最近では、須恵器の生産開始時期が「日本書紀」の記載（雄略紀）より早い時期（５世紀の前半頃）まで遡ると言われるようになりました。

須恵器製作の技術は、土師器の製作にもさまざまな影響を及ぼし、須恵器の形態を模した土師器の坏や鬲等も作られています。

また、土師器にはなかった甑が土師器の主要な器種の一つとなり、坏・高坏・鬲などに及ぼした影響は大きいようです。

５世紀後半になると甕・各種壺・蓋坏・高坏・器台・鬲が主要な器種となり、甑・すり鉢が加わって定型化するようになります。定型化後は各地で共通した器形がみられるようになり、地方色の強い土師器より、地方色が少なく器形に共通性をもつ「須恵器」が土器の編年に利用され、地域を越えて対比されています。今でも各地に残っている「陶」「須恵」という地名は、こうした須恵器作りの工人たちの村の名残です。

陶質土器と初期須恵器

土をこねて土器をつくることは、わが国では約１万２千年前に始まり縄文土器、弥生土器そして古墳時代の土師器と発達してきましたが、弥生時代の終わりごろ大陸から陶質土器といわれるものが伝わってきました。

陶質土器は紀元前約1500年前、中国山東省龍山文化の時期に初めてあらわれた焼き物の灰陶や黒陶の流れをくむもので、日本在来の土器にくらべると灰青色または黒色で堅硬で叩けばカンカンと金属性の音をたてます。

弥生時代後期にともなう陶質土器は対馬や福岡県前原市三雲遺跡などから出土し、古墳時代にともなうものは北九州や近畿・瀬戸内・関東地方からも発見されています。

５世紀になると朝鮮半島南東海岸の、日本の古代史上、任那（みまな）の名で知られる伽耶文化系の陶質土器がもたらされ、国産の陶質土器すなわち初期須恵器がつくられるようになりました。大阪府南部の陶邑古窯址群や福岡県朝倉郡夜須町の「小隈（こぐま）」「八並（やつなみ）」、同三輪町の「山隈（やまぐま）」窯跡などが知られ、伽耶文化系の陶質土器の特徴が踏襲されており、朝鮮半島から来た工人たちによって作られたものと思われています。

また、甘木市の「池の上・古寺墳墓群」からも陶質土器が出土しており外来のものか、国産品かと論議されてきましたが、最近では、その一部を除いて初期須恵器であろうと言われています。

熊本県でも城南町塚原古墳群や菊水町江田船山古墳の出土品にも初期須恵器が含まれています。

樽形𤭯や把手付椀（コップ形土器）等は初期須恵器に属するもので、やや生産期間の長い筒形器台等も５世紀末～６世紀初頭までに姿を消して行くようです。

これ以後、日本在来の土師器と須恵器は互に影響しあいながら、いろいろな器形を生み灰色の肌と文様がおりなす独特の美しさをかもし出して行きました。

新・旧の対比

須恵器にも時の流れがあり、器形にも少しずつ変化が見られます。編年によく利用される、蓋坏（ふたつき）・高坏（たかつき）、𤭯（はそう）を左から右へ古い順に並べています。

蓋坏

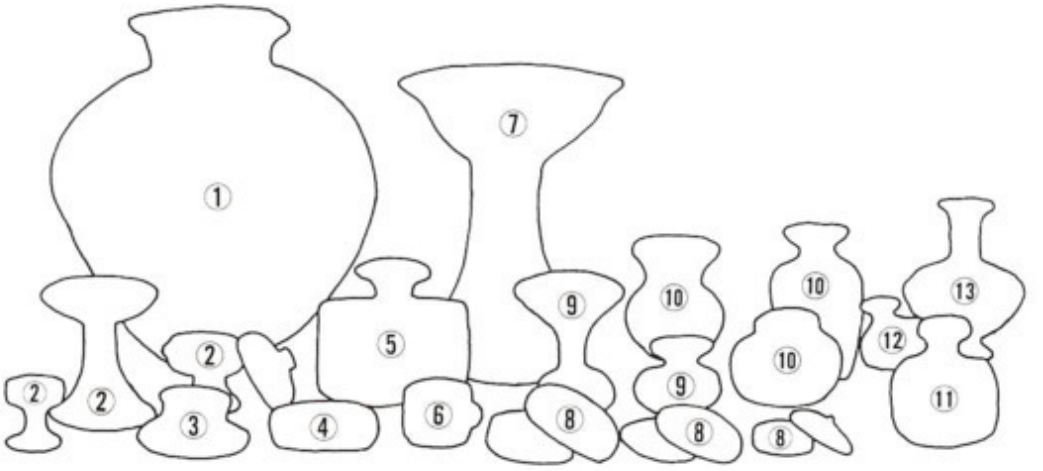
高坏

𤭯

須恵器の器

① **甕**　一番大型の器で、物を入れて貯蔵する容器
② **高坏**　坏身に脚が付いた形のもので、蓋が有るのと無いのがあり、食物を盛る器
③ **円面硯**　円形の硯
④ **風字硯**　風の字に似ていることから名付けられた硯
⑤ **樽形𤭯**　胴の部分に穴があり、この穴に竹など管状のものを差し込んで、酒などを注ぐ容器
⑥ **コップ形土器**　水や酒などを入れて、飲むのに使われた容器
⑦ **器台**　壺などを載せる器で、祭祀に使用された器
⑧ **蓋坏**（坏身・坏蓋とも呼び、そのセットが蓋坏）須恵器の中で最も多く出土する器種で、食物を盛る器
⑨ **𤭯**　胴の部分に穴があり、この穴に竹など管状のものを差し込んで、酒などを注ぐ容器
⑩ **壺**　物を入れて貯蔵する容器（小型のものは他の用途があると思われます）
⑪ **横瓶**　水や酒などを入れる容器（「瓶」と名が付くものは、水や酒など液体を入れる容器）
⑫ **平瓶**　水や酒など、液体を入れる容器、注ぎ口がかたよっているのが特徴で、液体を注ぎやすいようになっています。
⑬ **台付長頸壺**　水や酒などを入れて、注ぐ容器

種と用途



様々な遺跡と須恵器など

須恵器は、生産（窯跡）・埋葬（古墳等）・祭り（祭祀遺跡）・生活の場（住居跡）等から発見されていますが、古墳と窯跡からの出土が多く、県内では、祭祀遺跡や住居跡からの出土は例は、あまり知られていません。

また、宅地造成や、河川改修・道路建設等で偶然発見された遺物は、出土状況が判らない場合が多いようです。

上大利（かみおおり）出土の陶質土器

福岡県大野城市大字上大利の丘陵を削つて畑にしたところ（グリンパーク）から、昭和53年頃、高校生の茂和敏氏により、２個の「陶質土器」が採集され、大野城市の「歴史資料展示室」に寄託されています。

高坏の蓋と坏身で、舶載の陶質土器と見られています。

グリーンパーク出土陶質土器：有蓋高坏の蓋・坏身

大城山古墳群出土新羅土器：壺・蓋

大城山（おおきやま）古墳群

大野城市大字乙金にある６世紀後半から７世紀に及ぶ古墳群で、34基が確認されています。九州縦貫自動車道建設のため、昭和45年～47年の調査で「新羅土器」が出土したことで知られています。

新羅土器は、器表外面がスタンプなどで飾られているのが特徴です。

池の上と古寺墳墓群

福岡県甘木市大字菩提寺にある、池の上と古寺の両墳墓群は、同一の遺跡だろうと考えられています。多くの陶質土器が出土したことで発掘調査中から話題になり、以後「陶質土器」か「初期須恵器」かの論争が続いていますが、最近、朝倉窯跡群の一部（小隈窯跡群等）が調査されるに及んで、その大部分が地元の「小隈窯跡」等で生産し、供給されたのではないかと思われます。朝倉に窯を築いた人々は、遠く朝鮮半島から渡来した伽耶人たちで、日本で最も早く須恵器製作にかかわった集団の一つで、墳墓の規模が小さいにもかかわらず、豊富な副葬品や供献土器を持つことができたのではないでしょうか。

池の上 6 号墳出土：器台

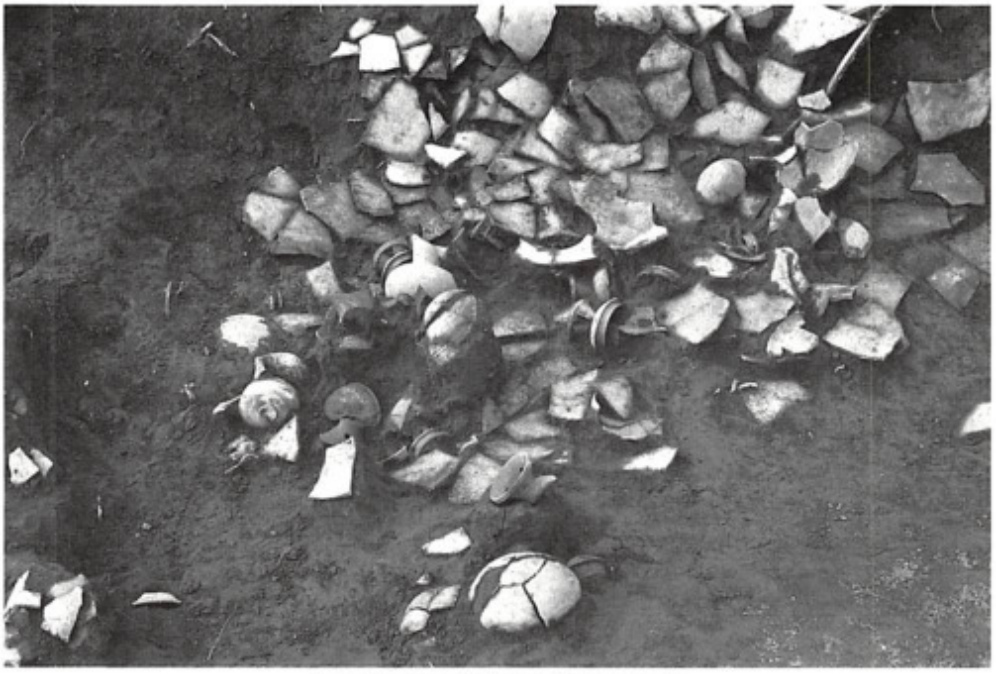
器台：波状文の細部

池の上 6 号墳出土：有蓋高坏

古寺墳墓群 D—10号出土：壺・コップ形土器

塚原古墳群

下益城郡城南町塚原にある県下最大の古墳群で、方形周溝墓・円墳・前方後円墳・石棺墓等203基が確認され、同じ台地での墓制の移り変わり（古墳時代前期末～後期末）がみられ、土師器・須恵器等が多数出土しています。15号方形周溝墓の周溝から、多数の土師器とともに須恵器の高坏が１点検出されました。短脚で四方に一段透かしがあり、硬く焼きあがり自然釉が付着しているもので他に例がなく、陶質土器もしくは、初期須恵器とみられますが、結論はでていません。上記の高坏のほかは丸山３・４・17・32号墳等の出土品です。



丸山３号墳北側周溝遺物出土状況

塚原古墳群出土：須恵器

丸山３号墳出土：甕

15号方形周溝墓出土：高坏

丸山 3 号墳出土：壺付器台

丸山17号墳出土：台付壺

丸山 3 号墳出土：有蓋高坏

丸山32号墳出土：皮袋形土器

丸山 4 号墳出土：横瓶

樽形𤭯（たるがたはそう）

樽形𤭯は、ウイスキーを長期間寝かせて置く樽にそっくりな形をしています。５世紀代に作られましたが６世紀になると姿を消す器種で、県内から５点しか出土していない珍しい土器です。土師器１点、須恵器が４点です。

今回４点展示していますが、他の１点は、菊水町の「かまど遺跡」から出土した二重樽形𤭯（にじゅうたるがたはそう）と言われるもので破片が出土しています。

熊本県内出土の樽形𤭯一括

八代市：洗切貝塚出土

嘉島町：二子塚遺跡出土

熊本市下硯川（井芹川左岸出土）

相良村：覚井古墳群出土（土師器）

京塚古墳

京塚古墳出土：子持壺・鈴付高坏

菊水町大字江田の清原台地にある「清原古墳群」の一つで、江田船山古墳と至近距離にあり、両古墳の距離は、周溝外縁で約14m で、昭和59年の調査時には墳丘はなく、「京塚」の名を留めるのみでした。調査の結果、周溝（幅約３ m）をもつ直径22m の円墳であることが確認され、内部主体は不明ですが、周溝から円筒埴輪・土師器・須恵器片などが出土しました。須恵器は鈴付き高坏・子持ち壺・鞴（ふいご）などです。

鈴付高坏は、器高13.2cm で坏部の外面腰部に３個の鈴を取り付けたもので、日本で初めての出土です。

江田船山古墳

菊水町大字江田の清原にある「清原古墳群」（江田船山古墳・虚空蔵塚古墳・塚坊主古墳・京塚古墳等）の一つで、昭和60年の周溝確認調査で、くびれ部に台形状の造り出しが付いた墳長62m、前方部巾40m、後円部巾41m、巾7.5m の周溝を持った前方後円墳であることがわかり、埴輪・土師器・須恵器等が出土しました。展示した高坏・小壺は、その時の出土品で大阪府の「陶邑（すえむら）」産と言われています。また、明治６年に発掘された75文字の銘文が刻まれた銀象嵌の太刀や銅鏡・金銅製冠帽等二百余点が一括して国宝に指定されています。

江田船山古墳出土：高坏

同：高坏

同：壺

赤井手古墳

福岡県春日市大字小倉にある直径約30mの円墳で、土地区画整理事業に伴う緊急調査がおこなわれ、鏡（3面）をはじめ装身具・武器・農工具・須恵器等多くの遺物が出土したことで知られています。須恵器は、副葬時の状態がわかる原位置を保ったまま出土し、器台には子持壺を載せたものと、瓶と高坏を載せたものがあり、その前後に有蓋脚付壺が立てられ、石室内で祭祀が行われたことを示しています。

赤井手古墳遺物出土状況

赤井手古墳出土：有蓋脚付壺：提瓶

赤井手古墳出土：器台と子持壺

赤井手古墳出土：高坏・鉢・瓶

姫の城古墳

八代郡竜北町にある「野津古墳群」は、物見櫓・姫の城・端の城・中の城の4基の前方後円墳からなり、姫の城古墳は、全長85mの古墳です。

未調査ですが、墳丘から「石製品」（衣蓋・翳）と筒形器台が出土しています。

筒形器台は、昭和32年に南部のくびれ部付近から出土したと言われています。

現存高52.6cm、中央径約12cmで、中央部を残して鉢部と脚の下方は欠損しています。

灰色（ねずみ色）を呈し、自然釉がかかっています。

姫の城古墳出土：筒形器台

チブサン古墳

山鹿市大字城字西福寺の平小城台地東端にあり、大正11年に国指定史跡となった前方後円墳で、複室の横穴式石室を有し、後室の家形石棺内壁に、赤・白・青の三色で菱形・同心円・円・三角文や人物等が描かれています。

また、墳丘に立てられていた「石人」が、東京国立博物館に収蔵されています。

昭和47年の豪雨被害による、応急保護工事の事前調査で出土した須恵器の大甕は、県内の出土品としては、城南町「塚原古墳群」の丸山3号墳出土に次ぐ大きさです。

チブサン古墳出土：大甕

栓付<ruby>瓵<rt>はそう</rt></ruby>

御内遺跡出土：栓付瓵

八代市古麓町御内「<ruby>御内<rt>みうち</rt></ruby>遺跡」出土品で、昭和30年代のみかん園造成に伴う整地作業時に、八代市在住の江上敏勝氏により発見されたもので、栓をした状態で出土した珍しい例です。この時期の瓵は頸の部分が細く、穴を開ける時に中に入り込んだ物が出られなくなり、振るとコロコロと音がするのが見られます。

本例は、栓にも胴部と同じ文様が付されているので、焼成後に取り出されて栓として利用されたと思われます。類例としては、大阪府の「四ツ池遺跡」「五反島遺跡」等から木栓付のものが出土しており、利用方法を知る上で貴重な資料と言えるでしょう。

コップ形土器

野原９古墳出土：コップ形土器

荒尾市野原「野原９号墳」からの出土品で、この種の土器は、把手付椀・ジョッキ形土器等とも呼ばれるもので、福岡県「池の上・古寺墳墓群」からまとまって出土していますが、あまり多い器種ではありません。本県からの出土は本例のみと思われます。

他のものは、５世紀代のものと言われていますが、野原９号のものは、時期が下るとみられます。

上高橋高田遺跡

上高橋高田遺跡出土：二重瓵

熊本市上高橋町にあり、市営上高橋団地建設に伴う調査で、縄文時代後期から、鎌倉時代前半にいたる遺構が確認され、多くの出土遺物の中に、珍しい二重瓵と呼ばれるものがあり、胴部の丸くなっているところが二重で、外側には透かしがあるのですが、外側は無くなっています。

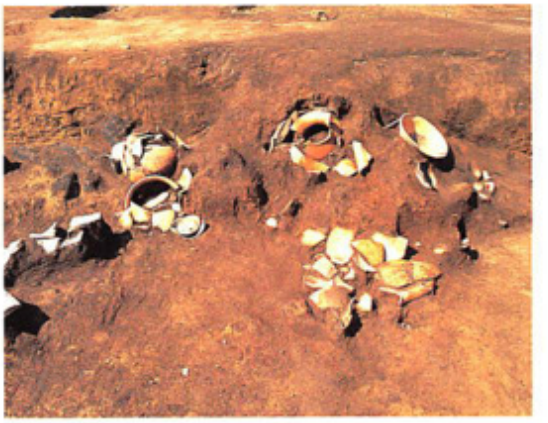
南中学校校庭遺跡

福岡県八女市大字馬場にある古墳時代の遺跡（６世紀後半）で、竪穴住居跡が28棟、隣接する「淵ノ上遺跡」からも同時期の竪穴住居跡23棟が確認され、同一集落の跡とみられています。

特に目を引くのが11号竪穴住居跡で、馬具（鉄製の轡）・土師器と大量の須恵器が出土しています。須恵器には、大型器台・壺・高坏・坏などがあり、特別な人が住むための家ではなかったかと思われます。

県内では、このように多量の須恵器が出土した住居跡は知られていません。

南中学校校庭遺跡11号竪穴住居跡

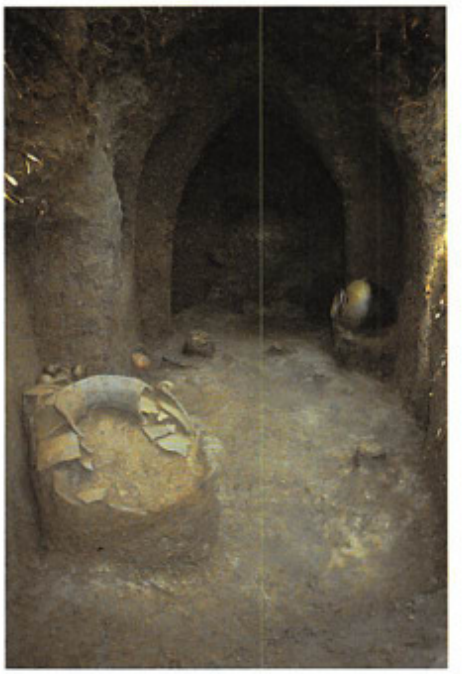


11号竪穴住居跡遺物出土状況

南中学校校庭遺跡11号竪穴住居跡出土遺物

湯の口横穴墓群

山鹿市大字蒲生字湯の口にある横穴墓群で258基が確認され、80基以上の実測調査等がおこなわれています。江戸時代の安政4年(1857年)に県下で有数の「湯の口溜池」が作られ、工事による破壊や埋没したものも多いと思われ、調査者は、500基以上あったものと推定しています。129号横穴墓は、唯一の複室構造で、群中のリーダー的な存在になっています。前庭部から、須恵器・土師器の土器類、室内から武器・馬具・装身具(玉類・耳環)が出土し、質・量ともに群を抜いています。また、出土した土器が前庭部に集中していることは、墓前祭などの儀式が行われたことを物語っています。



17号横穴墓前庭部遺物出土状況

湯の口横穴墓群129号横穴墓前庭部遺物出土状況

湯の口横穴墓群129号横穴墓出土：須恵器一括

129号横穴墓出土：蓋坏

129号横穴墓出土：壺

湯の口横穴墓群出土：大型甑
（大正時代に発見されたもの）

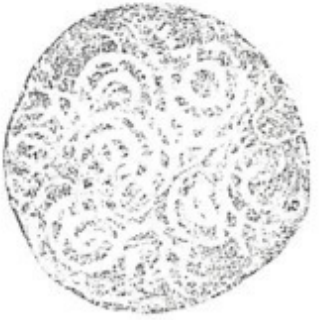
湯の口横穴墓群出土：甕
（大正時代に発見されたもの）

北山浦Ａ窯跡群

荒尾市府本字北山浦にあり、昭和24年から25年にかけて４基が確認され、Ａ～Ｄ窯と呼ばれ、昭和24年に調査されたＡ窯は、全長7.5m、最大巾1.6mの登り窯で、焼成部床面は平均約30°の傾斜があり、階段状に７つの段が設けられ、下段には壺を、上段には蓋や盤等小型のものが置かれ、その総数は壺約20個、盤等約30個で、焼成途中で窯が崩壊し廃棄されたもので、焼成時の位置や器種の構成を示す好資料と言われています。

また、壺の底部に見られる同心円の叩き目は、例が少なく、製品の供給先や技術の系譜を考えるうえで指標となるものです。

北山浦Ａ窯跡出土遺物：坏・壺



北山浦Ａ窯跡出土：壺の底部（拓本）

弓削小坂横穴墓群出土：台付鳥形瓶

弓削小坂（ゆげこさか）横穴墓群

熊本市竜田町弓削にある、７世紀末～８世紀初頭の横穴墓群（約40基）から、新熊本市史編纂のための調査で出土した土器の中に、特殊な形をした須恵器「台付鳥形瓶」(注ぎ口側から見ると船の様にも見える）があります。

類例としては、広島・鳥取県等からも出土しています。

須恵器を模倣した土師器

須恵器を模倣した土師器は、坏身・坏蓋・𤭯（はそう）等にみられます。良く似せて作られていますが、シャープさで見劣りがします。

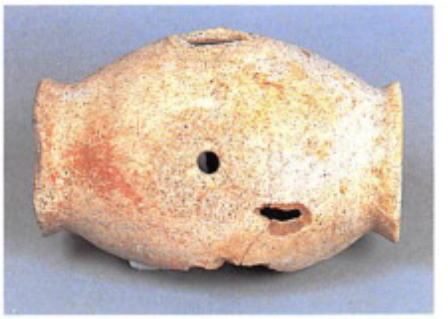
須恵器への願望なのか、祭祀などのために、土師質でなければならなかったのか、よくわかっていません。

① 「𤭯」出土地不明

② 「坏身」山鹿市「湯の口横穴墓群129号墓」出土

③ 「坏蓋」八女市「南中学校校庭遺跡」出土

須恵器を模倣した土師器



相良村「覚井古墳群」出土：樽形𤭯

須恵器製作の技法でつくつた土師器

八女市「南中学校校庭遺跡」11号竪穴住居跡出土の黄褐色を呈する土器で、甕の外面は格子目、内面は同心円（青海波文）の叩き目が頸部を除く全体に施されています。

高坏は、ロクロを使って成形され鉢部や脚部にはカキ目が施されており、何（いづ）れも須恵器作りの工人の手法で作られ、焼成だけが酸化焔焼成によったものと思われます。

八女市「南中学校校庭遺跡」出土：甕・高坏

須恵器の窯跡と技法

ハセムシ窯跡群

ハセムシ窯跡群

福岡県大野城市大字牛頸にある、牛頸窯跡群の一支群で、昭和62年～平成４年の間に三回にわたる調査が行われ、奈良時代の窯跡40基が確認され、須恵器の大甕破片に「和銅６年」「調」（税の一種）等とヘラ書きされたものや、窯詰めのとき使用された置き台（土器を載せる台）等が多数検出されています。この窯で生産された物は、奈良時代に「遠の朝廷」と言われた大宰府等に供給されたのでしょう。

平田窯跡群

平田Ｄ－１窯跡

福岡県大野城市大字牛頸字平田にあり、９基の窯跡が確認され「平田Ｄ－１窯跡」は昭和55年に調査され、窯はほぼ３分の２を残して上部が土取りで削られていましたが、残存部分の長さ12m の地下式のもので、上方部では天井の一部が残りトンネル状になっています。

高さ、最高で約1.8m、幅2.2m、壁面は、スサ入粘土で補修した部分も見られ、床面の観察から最低５回以上使用されたものと思われます。

岩長浦須恵器窯跡（模型）

福岡県粕屋郡宇美町の「岩長浦窯跡」の模型です。岩長浦窯跡群は、２基からなり、６世紀半ばに須恵器を焼いた窯跡で、２基ともほぼ同じ大きさで、全長約11m、焼成部の最大幅1.8m、床の傾斜31°～35°の窖窯（登り窯）で、地山をトンネル状にくりぬいた地下式のものです。構造は、焚き口・燃焼部・焼成部・煙道からなっています。

この模型は、石膏と発泡スチロール製で、約10分の１です。

岩長浦須恵器窯跡：模型

須恵器製作の道具

甕や壺など、大型器種に見られる格子目・同心円・平行文などの叩き目は、羽子板状の叩き板と、茸状の当て具などの痕跡で、体部を成形する場合、粘土紐を積み上げ、内側に当て具をあて、外側から叩き板で叩きながら成形しました。叩きは、空気を追い出して叩きしめる効果と、器壁を叩き延ばしながら成形する働きがあります。展示した模型は、福岡県春日市の九州大学筑紫キャンパス内遺跡出土品のほぼ実物大の模型です。

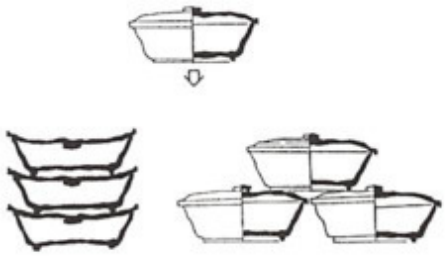
当具と叩板（模型）

須恵器の重ね焼

須恵器を焼成する窯詰の段階で、大形の甕の隙間に小型の高坏や蓋坏などを置きますが、より多くの物が入れられるように、重ね焼きという方法を用いました。蓋坏の場合、古墳時代のタイプは身に蓋を正常にかぶせた状態でしたが、のちに宝珠つまみのついた蓋が付けられるようになると、身は身だけを幾つも積み重ねたり、蓋を裏がえしにして身と重ねて、それを更に積み重ね、または、身に蓋を正常にかぶせて積み重ねたりしました。

写真は、蓋と身を交互に積み重ねたものです。

ハセムシ窯跡群出土：重ね焼きの坏と蓋



8 世紀代の蓋坏重ね焼模式図
（中村浩：考古学ライブラリー 5 「須恵器」から転載）

置台

窯詰の際、製品の安定と融着を防ぐため、砂を敷いたり、置台を用いたりしています。

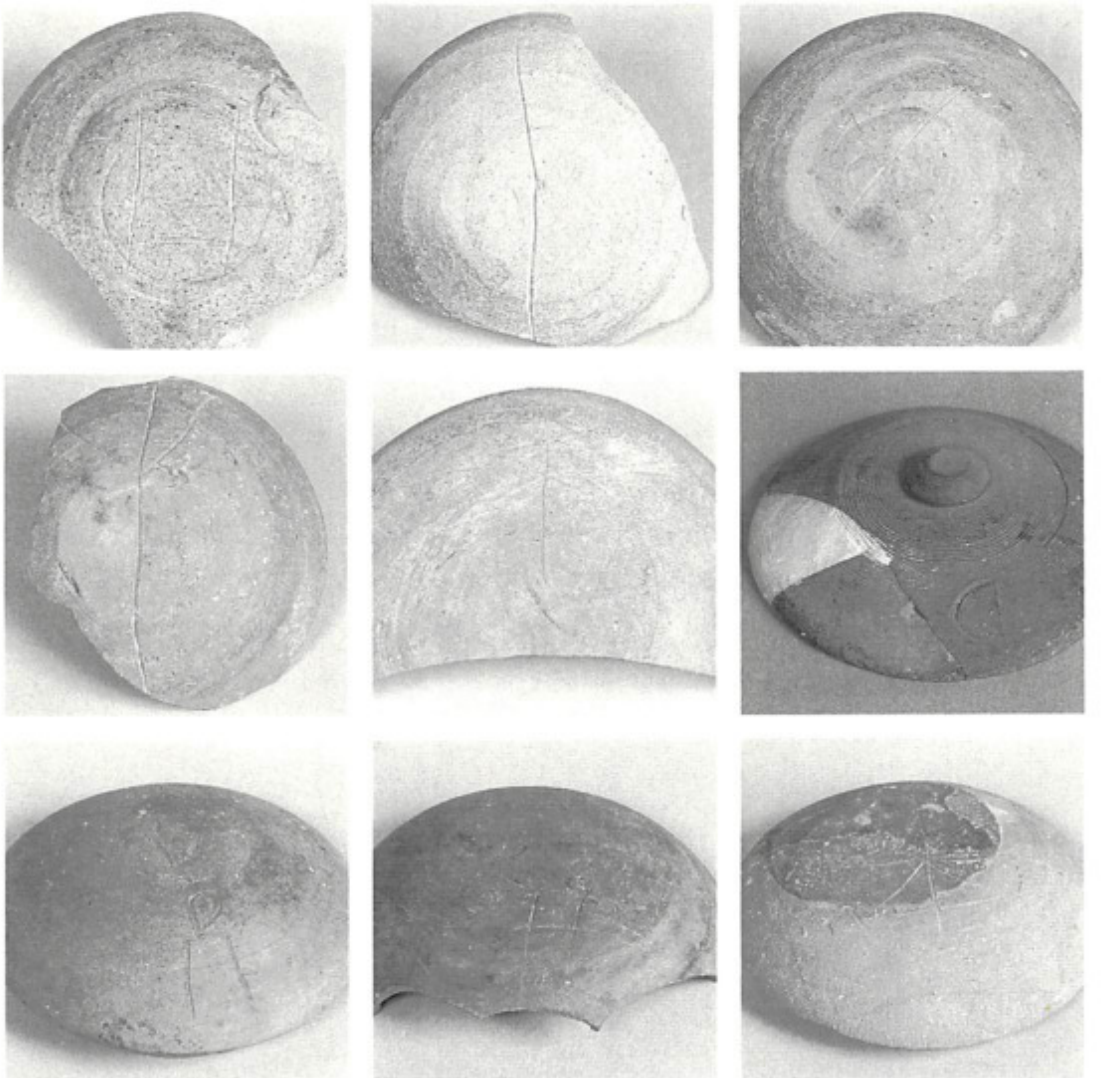
写真の置台は、牛頸ハセムシ窯跡群から出土したもので、工人の指の跡がついています。また、置台は焼台とも呼ばれます。

ハセムシ窯跡出土：置台

同：拡大

へら記号のある須恵器

須恵器の坏身や蓋に、へら描きの記号をしるしたものが、よく見られます。この記号を「窯じるし」「記号状刻文」などと呼び、その意味についてさまざまな議論がなされてきましたが、窯跡を調べて見ると、同じ窯から色々な記号を付したものが出土します。したがって、最近では「窯じるし」とは言わなくなってきています。へら記号は、「生産者の識別に便利なため」あるいは「注文者の必要によるため」など議論されていますが、ここでは、生産者（工人）の仕分け等に便利なためとしておきますが、皆さんも考えてみて下さい。



へら記号のある坏身と坏蓋

文字と硯

文字の使用

福岡県の志賀島から、「漢委奴国王」と記された金印が出土し、国宝に指定されています。また、鏡にも銘文が刻まれたものが見られ、これらは中国大陸で作られ、弥生時代に運ばれて来たものです。菊水町の「江田船山古墳」から出土した、大刀の棟に銀象嵌された75文字の銘文や埼玉県稲荷山古墳出土の115字の金象嵌の文字は、日本最古の文字と言われていますが、5～6世紀における文字の使用は一般的なものではなく、ごく限られた人達に用いられる程度でした。

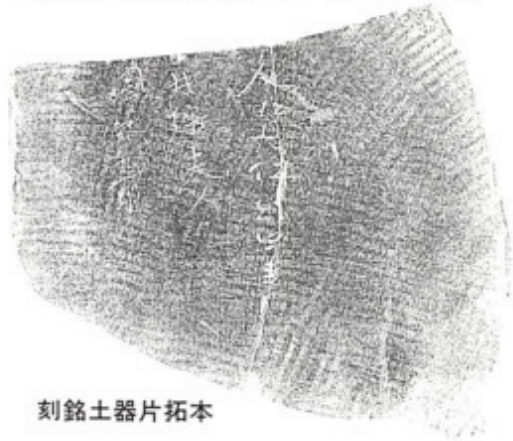
7世紀になると、木簡、墨書土器、刻字土器や仏像、石碑の銘文など、文字は様々な形で普及していったようです。

文字を書くための道具「硯」は宮殿・国府・郡衙・寺院跡や集落の住居跡、または、須恵器を焼いた窯跡などから出土しています。

下り山窯跡群

球磨郡錦町一武下り山にあり、9基からなる須恵器の窯跡で、8号窯跡からは、蓋坏、埦、甕や紡錘車等が出土し、特筆すべきものとして、甕の破片に文字を刻んだものがあります。8号窯は、全長5.4mで9基の窯跡群中最大で、遺物の量も多く土器が並べられたままの状態で出土したと言われています。土器を安定させるために甕の胴部破片を利用したものの中に、文字を刻んだ土器片が含まれていました。文字は3行にわたって線刻され、書体は細くて浅く、鋭利な金属で刻まれています。文章の下段は完結し、上段は欠失していますが、「国宇土郡」が「肥後国宇土郡」であれば、上段の二字が欠けていることになります。地名を記した貴重な資料です。

下り山8号窯跡出土：刻銘土器片



刻銘土器片拓本

ハセムシ窯跡群出土刻銘土器

ハセムシ窯跡12地区には、10基の須恵器窯跡があり、甕や坏蓋等16点余りに文字を刻んだものがあり注目されています。甕の体部にヘラ状工具で文字を刻んだものはほぼ同一内容と言われ、目的「調（ちょう）」（税の一種）、製作の時期「和銅6年（西暦713年）」や、地名「国名・郡名」、人名「納税者」等がわかります。文字が刻まれたのは、焼成以前の比較的柔らかな時期に行われており、須恵器の工人により記載されたと考えられます。

筑紫前國奈珂郡
手東里大神マ得身
并三人
調大毘一隻和銅六年

ハセムシ12地区出土：刻銘土器片（大甕）

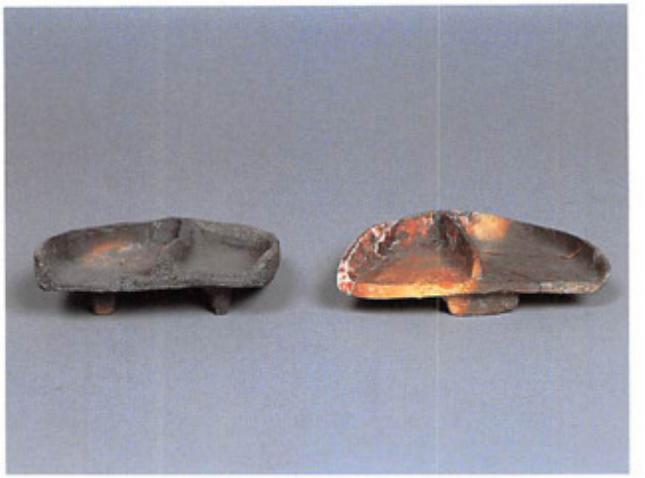
大神君百江
大神マ麻呂
内椋人万呂
并三人奉
□（調）毘一隻和銅六年

ハセムシ12地区出土：刻銘土器片（大甕）

須恵器の硯

文字を書くのに、筆と硯はなくてはならないものです。７世紀頃から円面硯（円形の硯）という須恵器の硯が窯で焼かれるようになり、風字硯（風の字に似ている）、そして石の硯へと変わって行きますが、須恵器の坏や、瓦等を利用した転用硯と呼ばれるものも使用されました。

荒尾市洗出窯跡出土：円面硯



荒尾市大別当窯跡出土：風字硯

荒尾市野原古墳群出土：転用硯
（須恵器の埦の高台部を利用したもの）

春日市浦ノ原窯跡出土：亀形硯（左）
春日市惣利北遺跡出土：亀形硯（右）
（特殊円面硯と呼ばれ、円面硯に亀の頭部を形どった把手を付けたもの）

参考文献

石野　博信・岩崎　卓也・河上　邦彦・白石太一郎（1991）「古墳時代の研究６：土師器と須恵器」雄山閣

小野　　昭・春成　秀爾・小田　静夫（1992）「図解・日本の人類遺跡」日本第四期学会（東京大学出版会）

坂本　經堯（1979）「肥後上代文化の研究」坂本經堯先生著作刊行会

白石太一郎（1990）「古代史復元７：古墳時代の工芸」講談社

勢田　広行（1982）「荒尾野原９号墳出土須恵器について」肥後考古第２号

田辺　昭三（1981）「須恵器大成」角川書店

中村　　浩（1980）「須恵器」考古学ライブラリー５　ニューサイエンス社

中村　　浩（1992）「須恵器窯跡の分布と変遷」考古学選書36　雄山閣

松本　健郎・勢田　広行（1982）「肥後の須恵器㈠須恵器生産の開始期をめぐって(1)」九州考古学第56号

三島　　格（1963）「肥後の須恵器資料㈡」熊本史学第25号

三島　　格（1964）「熊本県姫の城古墳の器台」九州考古学第22号

横田賢次郎（1993）「福岡県内出土の硯について」九州歴史資料館研究論集第９

熊本県教育委員会（1975）「塚原」熊本県下益城郡城南町所在塚原古墳群の調査　熊本県文化財調査報告第16集

熊本県教育委員会（1980）「生産遺跡基本調査報告書II」熊本県文化財調査報告第48集

八代市教育委員会（1980）「八代市の文化財（総集編）」八代市文化財審議委員会

山鹿市教育委員会（1988）「湯の口横穴群II」山鹿市立博物館調査報告第８集

山鹿市教育委員会（1990）「湯の口横穴群III」山鹿市立博物館調査報告第10集

福岡県教育委員会（1977）「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告第９集

甘木市教育委員会（1979）「池の上墳墓群」甘木市文化財調査報告第５集

甘木市教育委員会（1982）「古寺墳墓群」甘木市文化財調査報告第14集

大野城市教育委員会（1980）「牛頸平田窯跡」大野城市文化財調査報告第５集

大野城市教育委員会（1989）「牛頸ハセムシ窯跡群II」大野城市文化財調査報第30集

春日市教育委員会（1980）「赤井手遺跡」春日市文化財調査報告書第６集

宇美町教育委員会（1981）「観音浦」福岡県宇美町井野所在の観音浦・岩長浦遺跡調査報告

大阪府立弥生文化館・㈶大阪府埋蔵文化財協会（1993）「須恵器の始まりをさぐる：第８回泉州の遺跡」（展示図録）

吹田市立博物館（1993）「海を渡ってきた陶人たち」平成５年度特別展：図録

展示資料一覧

（県内）

遺　跡　名	資　料　名(数量)	所蔵／保管（敬称略）
洗切貝塚	須恵器　樽形𤭯(1)	江上敏勝
二子塚遺跡	〃　〃　(1)	緒方　勉
下硯川遺跡	〃　〃　(1)	菊池哲龍
覚井古墳群	土師器　〃　(1)	鶴島俊彦
野原古墳群	須恵器 転用硯(1)	三島　格
野原古墳群９号墳	〃　コップ形土器(1)	
野原古墳群	〃　皮袋形土器(1)	
北山浦Ａ窯跡	〃　坏(1)、壺(2)	荒井クスメ
大別当窯跡	〃　風字硯(1)	
大別当窯跡	〃　風字硯(1)、埦(1)、壺(1)	熊本県立荒尾高等学校
付城横穴墓群	〃　𤭯(1)、平瓶(1)	熊本県立鹿本高等学校
（出土地不明）	〃　高坏(1)、𤭯(1)	
弓削小坂横穴墓群	〃　台付船形瓶(1)	新熊本市史編纂室
江田船山古墳	〃　高坏(2)、壺(1)	熊本県教育委員会
京塚古墳	〃　子持壺(1)、鈴付高坏(2)	
下り山窯跡群	〃　刻銘土器片(1)、紡錘車(2)	
塚原古墳群	〃　高坏(1)、坏身(1)、(2)横瓶(1)、𤭯(2)	
	〃　高坏(2)、同蓋(1)、甕(1)、横瓶(1)、皮袋形土器(1)、台付壺(1)、壺付器台(1)	熊本県教育委員会／城南町歴史民俗資料館
上高橋高田遺跡	〃　二重𤭯(1)	熊本市教育委員会
高木原遺跡	〃　𤭯(1)、壺(1)	泗水町教育委員会
大別当窯跡	〃　風字硯(1)	
洗出窯跡	〃　円面硯(1)	
姫の城古墳	〃　筒形器台(1)	竜北東小学校／八代市立博物館未来の森ミュージアム
チブサン古墳	〃　大甕(1)	山鹿市立博物館

湯ノ口横穴墓群	須恵器　大甕(1)、甕(1)、壺(4)、坏(7)、坏蓋(7)、鼈(1)、平瓶(2) 土師器　坏(1)	山鹿市立博物館
（出土地不明）	〃　鼈(1)	

（県外）

遺　跡　名	資　料　名(数量)	所蔵／保管（敬称略）
池の上６号墳	須恵器　器台(1)、高坏(1)、同蓋(1)	甘木市教育委員会／福岡県立甘木歴史資料館
古寺古墳群Ｄ－10	〃　コップ形土器(1)、壺(1)	
ハセムシ窯跡群	須恵器　刻銘土器（４片接合１、２片接合１）、坏身(5)、坏蓋(5)、甕（破片２） 置台(3)	大野城市教育委員会
王城山古墳	新羅式土器　壺(2)、蓋(2)	
グリーンパーク	陶質土器　蓋(1)、坏身(1)	
赤井手古墳	須恵器　器台(2)、高坏(2)、鼈(1)、瓶(2)、小持壺(1)、有蓋脚付壺(2)、提瓶(1)	春日市教育委員会
浦ノ原窯跡群	〃　亀形硯(1)	
惣利北遺跡	〃　亀形硯(1)	
南中学校校庭遺跡（11号住居跡）	〃　器台(1)、壺(2)、高坏(1)、坏身(1)、坏蓋(1) 土師器　坏蓋(1)、高坏(1)、甕(1)	岩戸山歴史資料館

模型提供者（敬称略）

岩長浦須恵器窯跡模型：福岡県宇美町立歴史民俗資料館

写真提供者（敬称略）

牛頸平田窯跡群、ハセムシ窯跡群、王城山古墳群出土新羅式土器：大野城市教育委員会

赤井手古墳石室全景、赤井手古墳出土須恵器：春日市教育委員会

池の上６号墳、古寺墳墓群Ｄ－10出土陶質土器：藤原　学

姫の城古墳出土須恵器：八代市立博物館未来の森ミュージアム

湯ノ口横穴墓群17－Ｂ号墓、同129号墓遺物出土状況：山鹿市立博物館

塚原古墳群丸山13号墳遺物出土状況：熊本県教育委員会

塚原古墳群丸山３号墳出土須恵器：城南町歴史民俗資料館

南中学校校庭遺跡遺物出土状況：岩戸山歴史資料館

企画展協力者

今回の企画展開催・図録の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました、記して感謝の意を表します。(敬称略・50音順)

(個　人)

赤崎敏男　江上敏勝　清田純一　澤田宗順　島津義昭　勢田広行　中村幸史郎　平之内幸治　古森政次　丸山康晴　森浩一　柳田康雄
網田龍生　緒方勉　隈昭志　澤田康夫　新原正典　高木正文　秀嶋和子　藤原学　松岡史　三島格　山野洋一　吉田正一
荒井クスメ　菊池哲龍　佐藤昭則　茂和敏　杉本武彦　鶴島俊彦　平田定幸　舟山良一　松本健郎　宮坂孝宏　山村淳彦

(機　関)

荒尾市教育委員会
宇美町教育委員会
春日市教育委員会
熊本県立鹿本高等学校
新熊本市史編纂室
福岡県立甘木歴史資料館
山鹿市立博物館
甘木市教育委員会
宇美歴史民俗資料館
熊本県教育庁文化課
熊本市教育委員会文化課
城南町歴史民俗資料館
八代市立博物館
未来の森ミュージアム
岩戸山歴史資料館
大野城市教育委員会
熊本県立荒尾高等学校
泗水町教育委員会
吹田市立博物館
山鹿市教育委員会

第4回企画展

平成6年2月1日

発行／熊本県立装飾古墳館
〒861-05 熊本県鹿本郡鹿央町大字岩原3085番地
Tel 0968-36-2151（代表）
印刷／下田印刷熊本支店
〒860 熊本県熊本市南熊本3丁目1-3

■裏表紙の写真「弓削小坂横穴墓群」出土：台付鳥形瓶（18ページ参照）

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第 4 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：器は語る 須恵器の美と技と
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2018 年 6 月 1 日